ひとあいえどがわ

No.13
EDOGAWA SINCE 2004 SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU
http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

江戸川総合人生大学の樹
～地域活動のネットワークづくり～

6年前に江戸川区に植えられた苗木は、まちづくり・国際交流・子ども支援・地域福祉それぞれの養分や光を吸収し、風雨を受け、たくましく育ち、地域活動の枝葉を伸ばしてきました。
大地に根を張り大空に伸びゆく“江戸川総合人生大学の樹”をご紹介します。

江戸川グリーングリーン
幼稚園での畑の準備

小岩ほほえみの会
七夕飾り

江戸川アリスの会
日本文化の交流

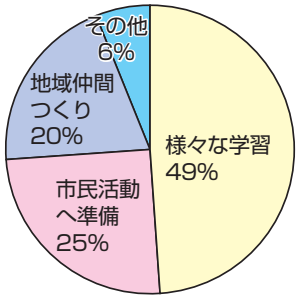
どんぐり
ペンダント作り

江戸川総合人生大学
卒業生　1～4期　304名　在校生　5～6期　180名
※上記グループの他、個人として活動している卒業生が沢山います。
また、人数には卒業生・在校生以外も入っています。

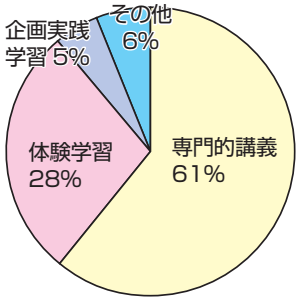
CLOSE UP!

樹が育つには、枝葉の成長が必要です。葉っぱである学生たちは、どんなことを学び、どんなことを感じているのか在校生にアンケートを行ないました。

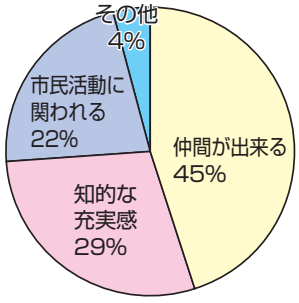
志望動機



好きなカリキュラム



学生生活で得るもの



回答者の年齢層は30代から80代まで幅広く、60代が過半数を超えています。専門講座や体験学習を熱心に学び、参加しながら仲間を増やし、地域活動に関わっていく様子が浮かんできます。

人生大学　地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

のびゆく枝では様々な活動をしています。のぞいてみて下さい。

まちづくり

区施設や商店街の空き店舗を活用し、地域の方の居場所づくりをしたり、朗読会の開催、まちを花でいっぱいにする活動、幼稚園や公園での緑化活動、モニュメントの清掃、まちをガイドするボランティアなど、人と人とのつながりを大事にしたまちづくりを展開しています。

地域福祉

熟年者や障がい者と年代を超えた交流をしています。家にとじこもりがちな人との会食や楽しいおしゃべり、軽い体操や工作など・・・。

毎日の生活で楽しい時間を過ごし、笑い、感動し、心を動かすことで、介護予防（認知症予防）を目指しています。

うきた 芙蓉の会　クリスマス

国際交流

さまざまな国の人たちと、言葉の壁を乗り越えて交流をしています。

日本語や日本文化を伝えたり、インド人学校や夜間中学での学習補助、留学生との交流など、おしゃべりや楽しいひとときを過ごすことで、文化の違いや国境を越えます。

国際江戸端会議　国際交流

子ども支援

地域でできる子育てとは何かを学び、小学校での学習支援、科学の楽しさを肌で感じるような実験、すくすくスクールや共育プラザ、子育てひろばなどで活動しています。

子どもたちと一緒に楽しむことが、コミュニケーションの秘訣です。

Yes, We can CHANGE!

人生大学での講義や活動を通して、地域仲間が広がり、生きがいを見出し、ライフワークのテーマを発見できる。更に人生観すら変わる人もいるかもしれませんね。その時には誰にも地域活動のデビューへの舞台が大きく開かれます。

えどがわエコセンターより　第4回「もったいない運動えどがわ区民大会」で表彰!

賞	受賞者名	受賞内容
区長賞	中山 壽月（じゅげつ）	落ちた木の枝や木の実に新たな命を吹き込み、アクセサリーやリースとして、生活の中に活かす工夫を「もったいない」の心で広めています。
理事長賞	江戸川双葉幼稚園＆母の会	幼稚園と母の会が連携し、もったいない運動に取り組んでいます。幼稚園の農園では堆肥づくりをし、雨水を利用。母の会はマイバッグやマイ箸の普及のほか、食材を無駄なく活かす料理を実践しています。

このほか、特別賞 1 団体、チャレンジ賞 7 団体、奨励賞 38 団体

「もったいない運動えどがわ」に登録して、省エネやごみの減量に取り組みましょう。明日の地球を守るのはあなた！詳しくはエコセンターまで。

えどがわエコセンター　TEL：03-5659-1651　FAX：03-5659-1677　e-mail: edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp

《5期生に聞く!》2年次の前半を終えた5期生に、最近の様子を聞いてみました。

子ども支援学科

子ども支援学科5期では、1年次中頃から、「工作研究会」の活動が始まりました。

牛乳パックを利用した人形、折り紙、切り絵・・・見本の作品を作るだけでなく、こうした方が作りやすい、教える時にはこんな風に・・など自分達の活動に役立つ事や楽しく活動できる事、そんな思いが大きかったように思います。

その成果は、昨夏の大学祭で「エコな仲間大集合！」という人形劇で皆さんに披露するまでになりました。

(打ち上げの席で「劇団5期」と名前がつきました)

2年次では、活動体験にそれぞれが関わるようになります。

その中から「今度、子育てひろばでの歌とおはなし、製作をやりたいけど、誰か手伝ってくれないかしら？」そんな声かけに何人かが集まって、当日の準備を進めます。

子ども達の笑顔や、参加者の楽しそうに工作をする姿は、とても励みになります。

「劇団5期」の活動の後は、昼食をとりながらの反省会。嬉しかったこと、失敗したことを、次回のために話し合います。こんな事をしたい、あれも作りたいとやりたいことはいっぱいあります。

「劇団5期」は共育プラザなどで活動しています。どうぞ遊びに来て下さい。お会いするのを楽しみにしています。

５期工作研究会：
折り紙で作る
サンタともみの木

共育プラザ・葛西　劇団５期
ミニミニ人形劇「食いしん坊のおばけ」

取材：熊倉・小杉（子５）

国際コミュニティ学科

２００９年現在、区内在住外国人数は約２万５千人。その１位は中国人です。

５期生７人が昨年10月に立ち上げた「小松川さくら交流会」は、区内に住む中国人の母親たちに日本語などを教え、交流するボランティアグループ。

中国人ママのサポートへ

きっかけは「日本で生まれた子どもたちは日本語しか話せず、中国語教室に通っています。その現場に興味を持って、メンバーが見学に行った時、控室で待っている中国人ママ達を知り、交流できないかと思いました。」とのこと。

対象の母親たちは20代後半～30代。子どもが隣の部屋で中国語を学ぶのと 同時進行で、日本語や日本文化、風習などを教えています。

(日本語を教えている様子)

子育てや生活、人間関係の相談も受けることもあり、経験を生かしてアドバイスをすることもあります。「いろいろなことが聞け、教えてもらえるので毎週楽しい。」と語る参加者の王さん。

交流を通してサポート

昨年12月には、外国人生徒が多く通う小松川第二中学校夜間学級の先生方と懇談会がもたれました。夜間学級とチームとの連携により、生徒たちとの交流を通して、日本語能力の向上のためのサポートをしていく予定です。

(懇談会の様子)

取材を通し、交流の大切さや、楽しみながらの支援活動が益々必要になってくることを実感しました。

取材：木村・秋元（国４）田代（国６）

ボランティアセンターより

ボランティア保険でいざという時に備えよう！

ボランティアセンターでは、ボランティア活動中のケガや事故に備えるための「ボランティア保険」の受付を行っています。この保険は、ボランティア自身が被ったケガに対する補償（傷害保険）と、他人に対して損害を与えた場合の補償（賠償責任保険）がセットになった保険です。ボランティア活動を安心して行うために、ボランティア保険に加入することをお勧めします。

【概要】　掛け捨ての年度保険（４月１日以降受付翌日から翌年３月31日まで適用）
保険料は300～1,400円迄の６プランで、ボランティアセンターに登録した団体・個人には保険料の一部を助成

平成22年度分の加入手続きは、３月下旬からボランティアセンターで受付開始。
３月27日（土）・４月10日（土）に、清新町活動室で出張受付を実施します。

【問い合わせ先】ボランティアセンター　江戸川区松島１－３８－１グリーンパレス新館１階
電話：５６６２－７６７１　FAX：３６５３－０７４０

江戸川区を知る<第1弾>

住んでいると意外と知らない自分たちのまち。新シリーズ「江戸川区を知る」第1弾として、江戸川区学芸員の樋口氏に3回連続で執筆していただきます。

愛しきわがまちの軌跡①

歴史を捨てる覚悟

樋口政則

人間のからだを構成している約60兆の細胞は、2～3ヵ月ですっかり入れ替わるそうです。それでもその人間はそのまま存在し、別人になるわけではありません（池谷裕二『進化しすぎた脳』）。建物や道路が、人間の細胞のようにすっかり別のものに入れ替わってしまっても、江戸川区らしさが受け継がれていくのはなぜか、ということを考えています。人びとの営みは土地の上でおこなわれ、その成果と痕跡は土地に刻まれてきました。江戸川区の歩みも土地に刻まれ、痕跡を残しています。その痕跡に江戸川区らしさを読み取ることができるのではないかと思うのです。

昭和7年（1932）10月1日、南葛飾郡ほかの周辺5郡が東京市と合併し、35区が生まれました。各郡では住民をまじえて町村の意見を集約し、東京市長ならびに市域拡張部へ意見書や陳情書を提出しています。江戸川区域が属する南葛飾郡では、大島町長を代表として、当時の20町村長が直接交渉にあたりました。

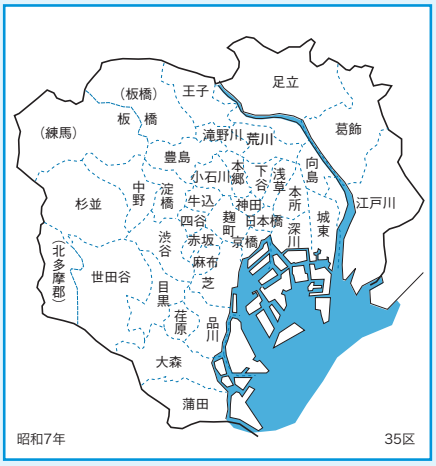
南葛飾郡役所

松江町役場

「永田東京市長：（前略）南葛飾郡がかくの如く早く話がまとまって見えたる事は全く予期せざりし所にして、この点に付諸君の特別に努力の多かりし事を喜ばしく存ずる所なり。（中略）ごく簡単に考えると東京市は単に市が大きくなるという問題なるも、各町村にとりては永き歴史ある町村を無視して新なる大東京というものを造る、即ち己を空しうして公に殉ずるという事となるを以て此の点よりいえば諸君の方は殊に重大なる事を決定されたる訳なり。」（『東京市域拡張史』、若干文字を平易に改めた）

5郡は人口が急増する中で水道・消防・警察・衛生・交通・教育などの公共施設の広域整備に期待したのでした。しかし、合併は「永き歴史」を捨てる「重大な」覚悟であったのかもしれません。

東京市の案は小岩町、鹿本村、篠崎村、瑞江村、松江町、葛西村の6町村を合体して江戸川区を編成するというものでした。小松川町の名がないのは、荒川放水路以西であるため、東京市案では亀戸区に属していたからです。実際は郡役所のあった小松川町を加えた7町村がこのとき江戸川区になりました。



「この地域は東部は江戸川、西部は荒川放水路の間に介在し、土地は平坦ではあるが低湿であって人口密度は低い。全体として農村地帯の域を脱してはいない。しかし、近い将来（中略）工業地帯としても、また住宅地域としても相当に発達することが期待され、一区を編成する妥当性は十分にあるといえる。」（「新区編成理由書」）

水郷にひろがる広大な農地が工業用地・住宅用地として期待されていたのです。都市化の流れはこのとき動き始めました。

（江戸川区郷土資料室学芸員）

次回は、愛しきわがまちの軌跡②「川を掘ってまちが動いた」の予定です。

同窓会の窓

同窓会は「大学」という枠を離れフィールドをさらに広げる時期に来ています。
大学設立の趣旨である学びの成果の地域還元を基本に置くことは忘れてはいけません。しかし今、私たち卒業生に求められていることは教育、環境、子育て、まちづくりなどでの補助的な参加型から、一歩進んだ行政などへの「参画」が求められているのではないでしょうか。
同時に区内で活躍しておられる「各種ボランティア団体との交流」なども大切なキーワードになるだろうと考えております。
「ひと　あい　えどがわ」創刊の理念とまったく一致していることに心強い思いをしております。
在校生の皆さん、区民の皆さん、より良い町づくりのために何が出来るのか、探し続ける同窓会でありたいと願っています。

★イベント・サークル情報★区民の皆様のご参加をお待ちしております

催し	日時	会場	費用	主催・お問い合せ・内容
都立八王子公園　緑化支援	4月3日（土） 雨天中止	京王線八王子駅 中央口9時30分集合	無料（弁当、交通費各自負担）	サタデーネット　高橋 TEL. 03-3670-8955
小岩の茶店	毎月2の付く日（3/12はお休み） 11時～15時	南小岩フラワーロード ポケットハウス	無料	すきま南風　高木 TEL. 03-5668-5396
葛西の寄り合い所　杜の会	毎月第1．3水曜日 13時～15時	西葛西5-7-8 第2ドミール森田404号	200円 材料費別	石井 TEL. 080-1049-3310
第20･21回　朗読会	3月27日（土）5月29日（土） 10時30分～11時40分	タワーホール船堀 3階応接会議室	無料	堀川 TEL. 03−3679-4357

編集後記

島田、松岡　両委員長のご指導を仰ぎ、多くの編集委員に支えられ本日、第13号の発行をもって退任となります。
今号の取り組みである卒業生（在校生を含む）の地域活動のネットワーク作りはその第一歩を踏み出したところです。今後、更なる構築を願っております。

編集長　勝倉洋子

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで　電話：03－3676－9075

「ひと　あい　えどがわ」編集委員

【4期生】熊谷吉光、寺久保好子（江）秋元直美、木村裕子（国）住谷信夫、矢放幸子（子）勝倉洋子、川端慶子（介）
【5期生】笹原喜代司、相本直樹、坂井敏子、金子律子（江）杉山力、細谷久子（国）小杉裕子、熊倉広美（子）木元和子、宮道益江（介）
【6期生】川名信義、岡恒男（江）田代耕太郎、田中サチ子（国）小谷勝彦、林田淳子（子）伊久美明、水野フジ子（介）